

前例のない挑戦を。 「共に生きる」を 実現するために。

CHALLENGE 01 理念共有

まずは4千人の仲間と、共に生きる。

全職員が同じ方向に向かって進むために欠かせないもの。それが理念です。そして、「共に生きる」というグループミッションから感動介護憲章、クレドまで、全体像を理解するために策定したのが、「Our Compass」という冊子。ここにまとめられた理念を体現する管理職が伝道師となり、研修やワークショップを通してチームメンバーへと伝えていきます。ここまで本気になって理念共有に取り組む会社は他にないでしょう。4000人の仲間が一丸となれば、大きな力になるのです。

CHALLENGE

02

海外展開

「共に生きる」という
KAIGOを輸出したい。

高齢先進国・日本で培ってきた介護ノウハウを、これから高齢化を迎えるアジアの国々に輸出すること。これも元気グループの使命だと考えています。実際すでに、中国・台湾・カンボジアなどに進出しています。日本とは制度や文化が異なる地で、どうしても「共に生きる」ことができるか。試行錯誤しながらも、確実に前進しています。



CHALLENGE 03 ロボット

体より、
心をいっぱいつかう。
そんな温かい介護へ。

かつて介護の仕事につきものだった力作業。実は職員だけでなく、ご利用者にとっても大きな負担に。そんな状況を過去のものとすべく私たちは、移乗支援ロボットなどの導入を積極的に進めてきました。現在は、元気グループオリジナルのロボット導入に向け、メーカーと連携し検討を重ねているところです。力作業を減らすことで、職員とご利用者が共にリラックスしながらコミュニケーションを取れるようになります。心と心が触れ合う温かな部分を増やしていけたらと考えています。

CHALLENGE 04 休日制度

週休3日制で、
今よりもっと
ご利用者に寄りそう。

介護職の仕事には夜勤があるため、週休2日制では休みを有意義に使えないのではないかと。そんな懸念から現在、週休3日制を一部施設で試験導入しています。働く日は働き、休む日はしっかり休む。リフレッシュすることでオンオフの切り替えができ、「感動介護」に邁進できる。そんな環境をつくっていきます。



CHALLENGE

05

設備投資

作業時間を減らして、
寄りそう時間を増やそう。

ご利用者や職員にかかる負担を減らすため、業界に先駆けて様々なITツール・先端機器を導入しています。まずは一部施設において試験的に。有用性が確認され次第、全社に本格展開。設備投資によって空いた時間は、ご利用者に寄り添うこと、つまり介護の本質的な部分に振り向けています。こうした業務改善をスピーディーに行えるのは、「現場主義」の考え方が浸透しているからです。現場が新たな取り組みを積極的に提案し、経営者も現場目線でそれに応えます。

A インカム

介護施設では、職員同士で声がけし情報共有する場面がたくさんあります。ただ、そのたびに広い建物内を移動するのは大変。そこで元氣グループではインカムを導入。かなりの時間短縮につながることに加え、若手職員にとっての安心感にも。「あなたが不安になったときに呼びなさい。あなたは1人ではないんだから」。インカムの支給には、そんなメッセージも込められているのです。

C パワープレート

プロのアスリートも使っている、筋肉をほぐす機器「パワープレート」を導入。高齢者が転倒する大きな理由は、筋肉が固いことです。日々、筋肉をほぐすことで、転倒のリスクを減らすことができます。また職員の腰痛も、パワープレートによりグッと軽減されます。現在、いくつかの施設に試験導入しており、今後全国へと展開していく計画です。

D ピュアット

毛穴より小さなナノサイズの泡を発生させる「ピュアット」を導入。汚れを落とす効果は抜群で、今まで20分かかっていた入浴時間は10分に半減。ごしごしこすらなくても汚れがとれるため肌にやさしく、ご利用者が服を着脱する時の寒さも、時短により大きく解消されました。

E 自動運転車いす

ご利用者にお乗りいただくだけで、設定しておいた目的地に着くという自動運転車いす。これも近い将来導入しようと構想を練っているところです。カメラの映像認識技術とAIを組み合わせた最新技術により、職員の付き添いが必要なくなり、大きな時短につながるでしょう。

現場で働く職員は、「共に生きる」をどう実践しているのか？
職員のリアルな声、ご紹介します。

A pair of hands is shown from the wrists up, holding a bouquet of flowers. The hands are positioned with palms facing each other, supporting the bouquet. The bouquet includes a large yellow rose at the bottom center, a red rose above it, and various greenery and smaller flowers like orange and white blossoms. The background is a solid, deep red color.

Life is Beautiful.

人生ってすばらしい。そう思える仕事って、案外少ないかもしれない。

まずはそのメガネ、 はずして読んで もらえますか。

—

裸眼になる必要はございません。

でも、今までの介護業界のイメージにとらわれずに、

わたしたちの姿をよく見てほしい。

本当は良いものが良く見えないとしたら、

あなたの可能性も狭まってしまうから。

ほら、想像よりも素敵でしょ。



LIFE IS BEAUTIFUL. KAIGO IS WONDERFUL.

01

「人生最高!」の瞬間は、
たとえば冷たいビールとか、
野球観戦とか。

ある日の外出先は、東京ドーム。ハンバーガーを片手に大興奮で野球観戦をするタナカさんは、プロ野球選手を目指していたのだそうです。施設内の畑を耕しているのは、長年農業を営んできたナカムラさん。100歳の今も現役です。暑い日にはみんなで生ビールを飲んで、特別な日にはお寿司を目の前で握ります。介護職のイメージが毎日同じお世話をすることだとしたら、大間違い。食べたいものを食べる、行きたい所に行く、やりたいことをする。そんなご利用者の生きがい叶えるのが、わたしたちの役目であり、やりがいです。

02

あなたの生き方が、
あなたにしかできない
仕事をつくる。

大学で勉強したことやこれまで培った経験は、すべて介護の役に立ちます。趣味でギターが弾けるのなら、音楽好きのご利用者は大喜び。歴史を学んできたのなら、元教授のご利用者の話し相手になれるかも。大切なのは、誰かをちょっと喜ばせたいという気持ちです。

03

はじまりは、小さな恩返し。
現在は、大きな志です。

1974年創業のGenkiGroupは、介護、医療、教育の3分野に事業を展開しています。1993年に始まった介護事業は、地域へ恩返しをするという想いからスタートし、今では従業員4000人、売上200億円のリーディングカンパニーへと成長しました。わたしたちの恩返しの想いを、次は世界にも届けたい。日本が育んだ介護のノウハウ・思いやりの心を、KAIGOとして輸出するのが当グループの使命です。

04

AIやIOTに
どんどん仕事を任せています。
人にしかできない仕事を、
大切にしたいので。

業務の負担を軽減するための機械や、IOTなどのシステムは、専門家に相談しながら積極的に取り入れています。介護の本質は、心をつかう人間にしかできないサービス。テクノロジーで補える部分は活用し、ご利用者の人生に寄り添う時間をもっと増やしたいのです。

05

暮らすように働く。
誰かにとって、
忘れられない人になる。

施設で暮らすご利用者にとって、スタッフは家族です。一緒に買い物に行ったり、料理をしたり。わたしたちは、自分の親や家族に対してするように、当たり前でかけがえのない毎日過ごします。「長生きして良かったわ」「あなたのご両親にお礼を言いたい」「施設での毎日が人生で一番楽しい」。出会えた喜びで、今日も胸がいっぱいです。

06

ドラマより、映画よりも、
感動的な一日を。

ある日、入居されている男性が照れくさそうに引き出しから取り出したのは、お手紙。50年目の結婚記念日、人生はじめてのサプライズに奥さまは号泣。事前に相談されていたスタッフも、思わずにっこり。雨が降り続く日々に「主人のお墓参りをしたい」と打ち明けてくださった女性のご利用者。一瞬の晴れ間をねらって外出できたのは、天国に旅立たれる一週間前のこと。最期の言葉は「願いを叶えてくれてありがとう」と、わたしたちに向けたお言葉でした。誰かの人生に寄り添う毎日は、感動の連続です。ご利用者の人生が、わたしたちの人生にも深みを与えてくれます。

KAIGO、新時代宣言。

今まで上手に伝えられなくてごめんなさい。

カイゴの仕事を、みなさんゴカイしているんです。

わたしたちの仕事はボランティアではないし

1日で習得できる仕事でもありません。

アイディアと、サービスと、テクノロジーと医学とが絡み合った
人間の職業の集大成だと思っています。

難しい問題があれば、知識と技術で超えていく

プロフェッショナルであり、

ときに、一生忘れられないような出来事も起こる、

ドラマチックな仕事です。

人生若い時もあれば、老いも訪れます。

自分だけでなく、家族にも。

就職活動中の若いみなさん。

今こそ介護の世界を知ること、明るい未来を感じてください。

人の生き方に触れ、心を磨いてみたいと思えたら

就職先としても考えてみてください。

恩返しの決意は、地域から全国へ。

そして日本から、世界へ。

GenkiGroupの挑戦は広がっています。



Genki Group

